

2022年度 自然保育推進事業 活動報告書

比治山大学短期大学部附属幼稚園

1. 環境整備

2012年に、園庭の斜面を利用して「さくらの森」を作りました。思い切り自然に触れて遊ぶことができ、子どもたちに人気の場所です。しかし、10年が経過し、「さくらの森」内に子どもたちが遊ぶのに危険な箇所が出てきたため、2022年度は「さくらの森」を整備し、リニューアルしました。



整備前の「さくらの森」では、子どもたちが何度も登り下りする斜面が土砂崩れしていたり、伸びすぎた枝で顔などを怪我したりすることもありました。そこで、斜面に木の階段をつけたり、植物を植えたりして滑りにくく整備しました。また危ない枝や木も剪定しました。



整備されリニューアルした「さくらの森」は、危険な箇所がなくなり、より安全に遊べるようになりました。

2. 遊びや活動内容

①ビオトープ観察会

2016年に園庭にビオトープを作りました。メダカ、アメンボ、カエル、ヌマエビ、ドジョウなどの生き物が生息する場です。今年度は講師の方を招いて、「ビオトープ観察会」を開催しました。



講師の方にハチやムカデなどの危険な生き物について教えていただいたり、子どもたちにとって身近な生き物であるメダカやヤゴ、オタマジャクシなど水辺に生息するものについて学んだりしました。



お話を聞いて学んだ後は、ビオトープに移動して、園児一人ひとりがメダカやヌマエビ、ヤゴなどの生き物を放流しました。ペットボトルに入っている生き物を、じっくり観察してから、いよいよ放流です。



放流した生き物を見つめ「元気に大きくなってね～」と声をかける子どもたちの姿がありました。日々、ビオトープを覗き込み、メダカやカエルの卵を発見したり、卵から孵った生き物の成長を観察したりして生命の不思議さや驚きを感じています。

②花や草を使って色水作り

自分たちで植えた朝顔の種から、夏には沢山の花が咲きました。しぼんでしまった朝顔の花をすりつぶして、色水作りがはじまりました。



はじめは、朝顔の花だけで色水を作っていた子どもたちでしたが、「この草でも色が出るかな?」「この花はどうか?」といろいろな草花や葉っぱをも見つけてきては、実験のように色水ができるか試している姿が見られました。また、花の量や水加減によって、紫でも、色の濃さに変化があることにも気付いていました。